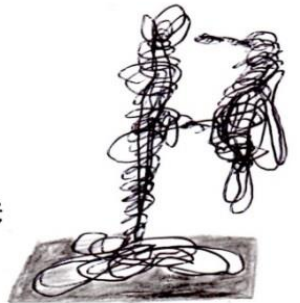


森の家にはいつも絵がたくさん掛かっています。立体作品も有ります。高崎の工房あかねの人たちの作品が主です。そこではM先生が障がいの有る人たちの指導をしておられます。時々お訪ねするとまわりが騒がしくてもすごい集中力で絵を描いていたりしています。彼らにはとてもかなわないものがあっていつも新鮮な印象が残ります。それは彼らの作品には謀(はかりごと)が無いという事だと思ひます。誰しも何か



作ろうとすればより良くうまく作りたいとあれこれ考えてしまいます。(決して間違ひではありませんが) 彼らの作品というものは最近ようやく認知され始めた アール・ブリュット (ART BRUT) という概念になるのでしょうか。あまり区分けをしたくないところですが、その人が生のまゝのイメージを表現する。ハカリゴトなしに、それで良いではありませんか。障がいの有無にかかわらずそれらの作品を見た人がそれぞれにナニモノかを感じ取ればそれで良いと考へます。

K君の立体作品などはオモシロイ。ワイヤーでぐるぐるまきつけながら恐竜、動物、鳥、魚などの生き物を手早く作ってしまうそうだ。それぞれの動物たちは生命感が有ってちゃんと足で立つ様にも作られている。半ば即興的に作るのでしょうか。楽しくやっていると思ひます。謀(はかりごと)無く楽しく集中して作り上げること出来る様でなかなかむずかし

い。そういう境地で何事もやて行ければ幸福なですか...



★一度見にいられませんか

文:石橋



細野ヶ原の初日の出

森の家 雪の朝



国道18号から浅間を望む

みんなお客様が  
はっぴいしました

## 前橋市立養護学校6年生修学旅行

10月9日・10日の一泊二日 前橋市立養護学校小学部修学旅行  
6年生9名と、校長先生、教務主任、養護教諭、担任教諭の8名、  
合計17名でのご利用でした。



一日目は、前橋駅集合→両毛線で高崎→新幹線で軽井沢→送迎バスで北軽井沢のおもちゃ王国→軽井沢まで送迎バス→ジャンボタクシーでまついだ森の家へというスケジュール。

夕食メニューは皆さんのご希望を取り入れて、メインは、ハンバーグ。ソースでごはん3杯食べた人も！。お風呂に入って寛ぎ程なく就寝タイム。いつもと違う経験で眠れない人もいたようですが、静かに何事もなく夜は過ぎ・・・朝はぐっとリラックスして、散歩→朝食、そして2日目のイベント、昼食のピザ作り体験へ。皆さんおそろいの白い給食帽とエプロンで神妙にスタンバイ。順番にデッキに移動してスタッフのサポートで、ワイワイムードで本格ピザ作り。ピザ生地をたたいて伸ばして円にしていって作業。トッピングはハム、ソース、ブロッコリー、ジャガイモ、チーズ、コーンをそれぞれ自由にお好みで盛り付けをしました。そして森の家のボランティアさん手作りの石の窯で焼くという美味しそうな工程でした。ピザの生地は厚くボリュームたっぷり。児童のみなさんは前日の晩御飯もたくさん食べたようですが、ピザもいっぱい食べました。（追加5枚あり！）他にミネストローネスープとマカロニサラダ、デザートに果物の梨。快晴の空の下、料理をつくる作業は気持ちのいいもので、和気あいあいとした雰囲気でもみな過ごすことができました。（僕も美味しくピザをごちそうになりました）

今回、先生の中でまついだ森の家を知っている方がいて、障害があっても問題なく宿泊できるということで利用することになったそうです。森の家側も、修学旅行としてのご利用受け入れは、この7月の長野県松本市の寿台養護学校以来まだ2回目ですが、選ばれたことをとても喜んでます。先生方は、貸切できたことで大変過ごしやすかった、来年もぜひ来たいとおっしゃっていました。

児童の皆さんに森の家についての印象を聞くと、「嬉しい」「楽しい」と微笑んでくれました。

この後に集合写真を撮り、最後のプログラム、「藤岡でボウリング」へと出発していかれました。

（取材担当ボランティアスタッフ 篠原知倫 記）



こんなお客様が  
いらっしゃいました

愛里さん、福祉車両で妙義山ドライブ

横浜から、毎年恒例、ヘルパーさんと2泊3日のまついだ森の家お泊り旅行に来られます。

秋晴れの空に誘われて自然の風を感じるドライブプログラムを楽しみました。

森の家も、もちろん福祉車両を所有していますが、2列目座席が回転して出てくるタイプですので、自分専用の車いすで外出したい方の場合には、車いすごと乗車できるタイプの福祉車両を、お借りしています。地元社会福祉協議会のご協力に感謝です。



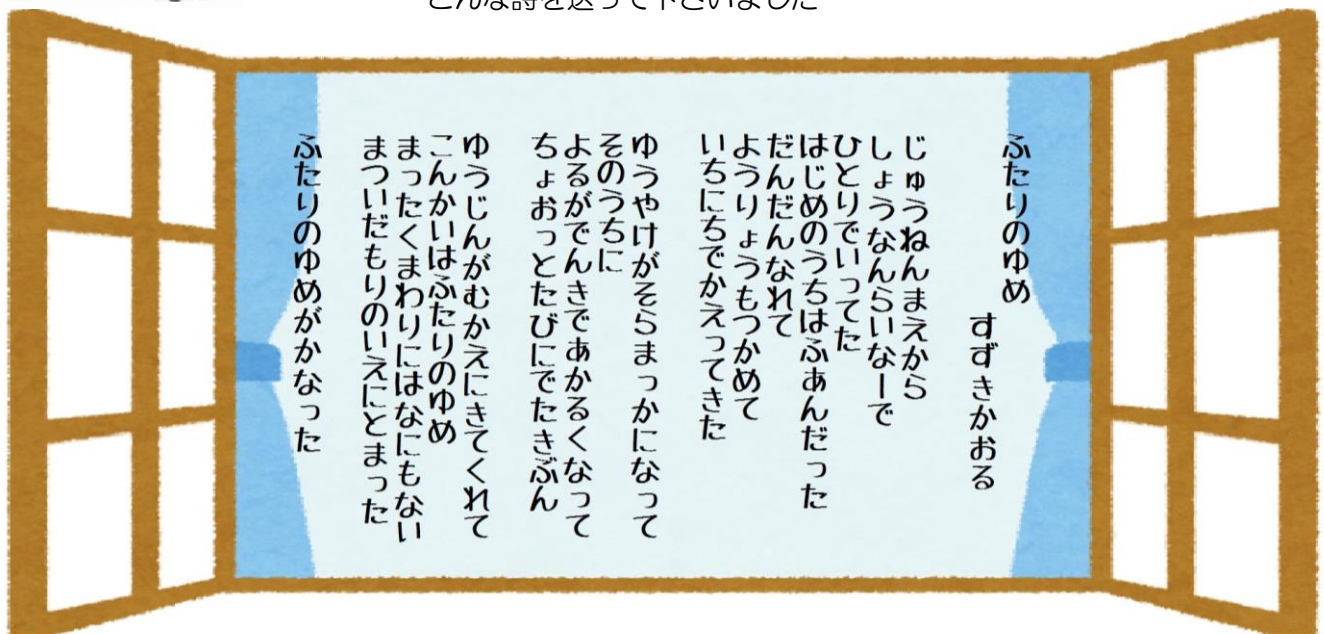
こんなお客様が  
いらっしゃいました



藤沢のグループホームにお住いの鈴木 薫さんが友人と宿泊されました。

鈴木さんは、以前は高崎コロニー（現「のぞみの園」）に入所していました。かつて、就学免除という、学校教育を受けなくてもよいという制度があったために、字を学習するチャンスが無く、また、脳性マヒによる言語障害のために、自分の思いを伝えることができなかつた鈴木さんでしたが、高崎コロニー時代に、理解してくれる職員さんと出会ったことで、自分を表現できるようになり、新しい世界が開けました。その後、コロニーを解体して入所者を地域に返すという流れの中で、藤沢での生活が始まりました。体の障がいは、年齢とともに不自由になっていく部分はありますが「今が一番幸せ」という鈴木さん。

こんな詩を送って下さいました



みなお客様が  
いらっしゃいました

沢山の情報、人々が行きかうせわしい街、東京からこまついだ森の家を訪れてくださった3人のご年配の女性のお客様。埼玉の新座市にある、障害者ための運転免許合宿教習所で知り合ったお仲間とのこと。身体の障がいをお持ちです。

この森の家のまわりの自然に癒しをうけているとお話を伺いました。

「最初にここに来て感じたのは心地よい自然の音。竹藪に風が通るときの葉と葉が擦れ合うさらさらとした林の声や、橋の下の川が流れる静かな水の声。それらを聴くととても癒される」とおっしゃいました。「東京で生活していて息が詰まる事が多々あるなかで、松井田の何も無いこの空間がいいんです。この松井田の自然は変わらないでほしい」と気持ちを込めて言ってくださるのがとても印象的でした。

年に一回は絶対に来るスポット、外せない人生のオアシスでもあるようです。

「ここに来るとただいまといいたくなる」というその言葉に応える場所としてサービスの提供を続けていきたいまついだ森の家です。食事も美味しいですよ。

(インタビュー by しのはら)

ここが故郷になったよ。

小脳が小さくなって行く進行性の病気のNさん。関節リュウマチで、身体のほとんどの関節が固まって動かないOさん。そして私は脳性マヒ。

3人が出会ったのは、障がい者も運転免許が取得訓練できる教習所。宿泊施設も併設されているので、全国から免許を取りに来る人たちが集まって来る。そんな中で同じ部屋になってなんとなく気が合った私達。教習所卒業後も年に2,3度くらい会って17年くらいのお付き合い。私がもっと動けたころは、私が東京まで出て行くこともあったが、最近是我的体を気遣ってか、森の家の魅力に引き付けられたのか、Nさんは年に2度、Oさんも体調をみながら楽しみにやって来る。

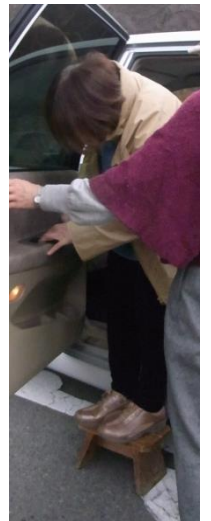
お目当ては、美味しいお料理と観光。森の家はリクエストに沿ったプランを計画段階から相談に乗ってくれるので嬉しい。車いすのNさんが入れるお店はまだ数少ない。

今回はNさんのお友達も加わって、2泊の中1日の観光は、榛名湖から北軽井沢に抜けて、Nさんお気に入りの「パンカーラ」でケーナの生演奏付きのランチ。碓氷峠旧道の見事な紅葉も堪能、大満足の日となった。

「東京に居ると、自然に囲まれた森の家は別世界。気兼ねなくて、もうここは私の故郷になったよ」と、Nさんはよく口にする。

Oさんと私は、帰り道、近くで車を降りて森の家までお散歩を楽しんだ。普段は話せない障がい者同士の本音トークもできてストレス解消。心がほどけていく気がした。「森の家があって良かった！」心の中でつぶやいた。

(同行 内田 記)



関節の曲りが不自由なため、車の乗降にステップを使い、ゆっくりと動く範囲で・・・



## 「自閉症の僕が跳びはねる理由」

東田直樹著



運命の出会いとも言うべきこの本との出会いは森の家でだった。言葉のない最重度の自閉症の息子を理解したいがために、たくさんの本を読みあさった。それでも息子への理解に苦しんでいた。正直、息子との悪戦苦闘の日々に疲れ果てていた。そんな時、この本に出会った。

自閉症を抱えた会話のできない直樹さんが、質問形式で自分の気持ちや心の内をピュアに語っている本だった。

息子や自閉症の方に見られる、パニックになるのはどうしてか？の問いに著者の東田直樹君はこのように書いています

みんなが僕たちを誤解していることのひとつに、僕たちはみんなのような複雑な感情はないと思われていることです。

僕たちだって、みんなと同じ思いを持っています。上手く話せない分、みんなよりもっと繊細かも知れません。思い通りにならない体、伝えられない気持ちを抱え、いつも僕らはぎりぎりのところで生きているのです。気が狂いそうになって、苦しくて苦しくてパニックになることもあります。そんな時には泣かせて下さい。側で優しく見守って下さい。苦しきのあまり自分がわからなくなり、自傷、他傷行為をするのをとめて下さい。

ただただ愕然とした。そして涙が止めどなく溢れた。それから息子に“今までごめんね”と謝った。

直樹さんのコトバが息子の心の叫びと重なり、親でありながら我が子のことをわかってあげられない辛さを抱えていた自分の心に光が差し込んだ。

この本のおかげで、息子や自閉症を抱えた方たちにたくさんの溢れる思いがあることを知り、はた目には理解し難い行動にもきちんと理由があることが理解できた。

そして息子に優しくなれたり、ありのままの息子を受け入れられる幅が広がった。本当に私と息子の関係性と人生を変えてくれた大切な宝物となった。



この本は現在22歳の直樹さんが13歳の時の著作で2013年に英訳され、ベストセラーとなり20カ国以上での出版が決まっているなど、世界の多くの人たちを救っている。

自閉症の方への理解はもちろん、障がいを超えて人間として大切なことをたくさん教えてくれるこの一冊を今の時代に1人でも多くの人に是非読んでいただきたい。

その他におすすめの著書として、18才の直樹さんのあるがまま書かれ「あるがままに自閉症です」、そして現在の直樹さんに出会える新刊「跳びはねる思考」もオススメ！



またNHKテレビで大反響を呼んだ直樹さんの番組「君が僕の息子について教えてくれたこと」では、直樹さんの溢れる愛が自閉症を抱えたご本人や家族を救ったのはもちろん、世界の多くの人たちに自閉症への理解を広め、生きる勇気と希望を与えてくれた。

記 狩野洋子

### 筆者プロフィール：狩野洋子：

コトバのない最重度の自閉症の息子俊くん（特別支援学校高1）の母。まついだ森の家理事。

# CHARITY EVENT みい〜んなひかるin安中

『障がいのある人もない人も働くこと、働けることはみい〜んなの喜び。  
障がいをもった仲間が心をこめてつくったあなたへの愛を手にするチャンス！』

このイベントは、「障害のあるなしに関わらず、共に生きることのできる社会を作ろう！」という主催者の思いからスタートし、安中市と共催で2014年12月7日に安中市内3会場で同時開催されました。会場のひとつ安中市文化センターでは「発達障がい児(者)の社会参加と就労に向けての理解と支援」と題して梅永雄二先生講演会、ファミリークリスマスコンサート、アスペルガー症候群当事者を出演者に含む演劇、福祉手作り品などの販売と大試食会など、盛りだくさんの内容で来場者を迎えました。まついだ森の家では「ひかるCafe」がオープンし、「紡ぐ」をテーマに織り体験やミニコンサートが開催されました。工房あかねのバリアフリーアート作品も展示され、来館者の目を楽しませていました。同じく松井田会場の細野ふるさとセンターは、仙台のバリアフリー音楽祭を手本に、障害のある人もない人もみい〜んなが参加する「一日中音楽祭」を開催。15組の出演者と来場者が一体となり会場を盛り上げました。



## 前代未聞の満員御礼

オープンからたくさんの方が来て下さり、11時のミニコンサート時点で森の家の中は人・人。手作り品コーナーには入室待ちの人が並び、ランチタイムにホールは満席。二階にもお客様。えーっ！どうなるの？と思いきや、それぞれの部署で必死に頑張っているスタッフの姿。

今回、森の家には120名からの方が足を運んで下さいました。懐かしい顔はもちろん、前橋・伊勢崎、遠くは太田からも。初めて森の家を訪ねて下さった方もいました。また、施設の仲間の訪問も多かったようです。

今、全てが終わり振り返った時、スタッフの仲間たちがよくやってくれたなあという思いです。それぞれの部署で最大に努力をしてくれたからこそ、乗り切ることが出来たとしみじみ感じるので。そして、楽しかったと言ってくれる言葉に感謝しています。

森Cafe 担当 高橋洋子



# 一日中音楽祭 ～みい～んなちがってみい～んないい～

6時間の中に15組100名を超える出演者という無謀なタイムスケジュール。音楽のことに関して  
はど素人のスタッフ。PAの方からは「これは、かなり時間がおすなあ」と言われ、…大丈夫か？  
と内心思いながらも「大丈夫です！」と言い切った朝。リハーサルなしのぶっつけ本番。  
司会者の進行の上手さとスタッフの素早い連携に助けられ出演者の方々のご協力もいただき、  
ほとんど時間通りに終了することができました！



エンディングは会場にいた皆さんで仙台市で毎年開催されている「音楽のチカラで心のバリアフリーを  
目指す！とっておきの音楽祭」のテーマソング「オハイエ」を歌ってフィナーレ♪もちろん、手話  
付きで。文字通り、ふるさとセンターのホールに一日中音楽が流れ障がいのある人もない人も、一緒に  
歌ったり、踊ったり、聴き入った、り出店の皆様とも同じ空間で一緒に楽しめて一体感を味わえた1日  
となりました。この「一日中音楽祭」に関わって  
いただきました全ての皆様に心から感謝申し上げます。

一日中音楽祭担当 織茂加代子

## こんな出会いがありました

小寺さんという女性から連絡がありました。  
自閉症の息子さんは、同じく重度自閉症の  
ピアニスト小柳拓人さんとコラボ演奏など  
されているバイオリン奏者。

私達のイベントに共感してくださり、  
小柳さんを紹介したいとのこと。  
小柳さんは東田直樹くんや  
瑞宝太鼓とのコラボ演奏も  
している巷で有名なピアニスト。  
素敵な出会いの予感がします…



前売りチケット売上の最終集計は 555枚！  
目標枚数を超えるご協力をいただきました。

愛の555まい まさしく GOゴーゴー！！  
そして当日券を含めた最終売上枚数は、  
750枚になりました！

購入してくださったみい～んらの愛を私達は受け取りました。



## まついだ森の家は「バリアフリーペンション」です！

(イベント時は、普段の雰囲気はわかりにくいかも…)  
そんな中、館林から、デイサービス「セサミすまいる」  
のスタッフが、放課後支援高3クラスの卒業旅行の下見に  
来てくださいました。

詳しくは  
見学・相談いつでも歓迎です。「まついだ森の家」で検索！

## みんなみんな光っていました

## みい～んなひかるin安中 を終えて

障害があってもなくてもともに手をつなぎ、優しい町を作る…。

昨年に引き続き、安中市と共催という形で二回目です。なんと思われていることでしょうか！

ちびちびプロジェクトは、発達障害のある当事者を中心に活動を展開して1年半の、

まだピヨピヨのひよこですが、今まで沢山の種まきをしてきました。

小さな芽が出て、つるが伸びてしっかりと周りに巻き付いて育っています。

小さな蕾をつけたものもありますし、「みい～んなひかるin安中」では、

見事な大輪の花を咲かせました。

森の家を愛する者の一人として運営をお手伝いして約5年。私の戦略は  
「人をつなげる」です。安中市の有益な資源として、広く地域に貢献する  
ことです。森の家の強みは、ズバリ！！「助け合える人」ではないでしょうか。

今回の通信でもご紹介できないほどのボランティアスタッフや、応援団がいます。

そして、ずーっと核となって続けてこられた、専任スタッフの黒羽ご夫妻、石橋さん。

「みい～んなひかるin安中」を市内の3か所で開催した目的は、そんな森の家を沢山の人の

知ってもらうこと、関わって下さる人を沢山増やすこと。

そして、森の家の強みを生かして安中市の福祉の向上に一役買いますと、世間にお伝えすることでした。

さて、花が咲いて実を結んだ甘い果実は、みんなで分かち合って「いただきます！」ですね。

このご縁に、幸せを分かち合える仲間たちに心から感謝！！

合言葉は「いっしょに生きる」

これからもどうぞよろしく願いいたします。

ちびちびプロジェクト 代表  
まついだ森の家 理事 堀越美妃





真っ青な青空と10月にしては暑いぐらいの日射しの下、森の家の裏山から火の精が舞い降りてきて(?)、キャンプファイヤーに点火。デイキャンプの始まりです！今回は、障害児8名を含む子供22名、大人25名の参加(スタッフ含む)で、とても賑やかでした。



まずは皆で秋を見つけに森の家周辺を散策。紅葉には少し早かったけれど、色づき始めた木々からの木漏れ日を感じながらの散歩はとても気持ちのいいものでした。綺麗な色の落ち葉や面白い形の葉っぱ、木の実などを拾ったり、飛び跳ねるバッタやカエルを捕まえたり…。澄んだ空気を感じながらのんびりした時間を過ごしました。

散策で拾った色とりどりの葉っぱや花を森の家に持ち帰ると、各自好きなようにレイアウト。それをパウチングしてもらとうと、こんなに素敵なシートが完成！どの子も色鮮やかなすばらしい作品に仕上がっていました。秋って綺麗。



ここでちょっと話を変えて、ひねもす(下記参照)と森の家との関係を説明いたします。ひねもす代表の高尾さんが新たな活動場所を探していた時、昔からの仲間である堀越さん(森の家理事)から森の家を紹介してもらったところ一目惚れ！



『楽しく、愉快地、そして自由に』をモットーに活動している彼らにとって、山あり川ありのここの空間は絶好の場所だったようです。高尾さんが森の家に初めて来たのは6月下旬。なんと7月には第1回デイキャンプ開催。すごい実行力です(笑)。沢で水遊びをして石窯でピザを焼いて・・・夏を楽しみました。



話は戻り、最後はお待ちかねのランチタイム。今回のメインはプリップリの秋刀魚！お刺身で食べられるくらい新鮮なものを用意してくれました。文句なしに今年一番の美味しい秋刀魚。その他、ご飯に豚汁、きのこ炒めに続き、締めにはひねもす特製チャーハン。にんにくが効いていてこれまた激ウマ！そして、キャンプファイヤーがいい感じのおき火になった頃には焼き芋もできていて、子供たちはマシュマロを焼いたり、大人も子供も大満足。お腹も心も秋いっぱい満たされた一日でした。



次回デイキャンプは今年の1月か2月に開催予定だそうです。乞うご期待！！ (児玉 記)



### NPO 法人 ひねもす

H15年設立。母体は「ひねもす探検隊(設立1991年)」。県内の広域において、年齢、障害の有無を問わず、野外活動での遊びを通し、自然の素晴らしさや厳しさ、人と人とのふれあいを体感、体験し、未来の好奇心を提供しています。

事務所：高崎市上和田町50-4 HP：www.hinetan.com





アスペルガー症候群とは、発達障害の1つで、脳の機能や感覚・認知に偏りがあるが、知的な障害がない自閉症のこと

お久しぶりです。物書き見習い堀越です。  
今回はアスペにとって大きな関門である書類手続きについて触れたいと思います。  
まず、なぜ書類手続き、具体的には願書作成などができないかというと、3つ程の苦手な事があるからです。一つには手書きの場合文字をはみ出さないように書くだけでも大変なことです。細かい動きができないので、住所を書くのもつらいのです。

もう一つは住所の番号、名前の位置、ふりがなの有無など細かなことを同時に考えないといけないところです。これが手続きの苦手さの一番痛いところです。自分で見ると100%よくできてると思いますが、実際のところ書いてないところさえあります。

そして最後にそれらできない事を同時に処理しなければならないところです。たまたまマスの中に書いても表記ミスがあったり、表記漏れがなくても下書きを消し忘れたり、複数のことを同時にしなければならないのは無理に近いです。

普通の人からすると何でもないことに見えますが、本人にしたらトラウマになる程苦手です。周りにアスペの人がいる場合、書類手続きは手伝ってあげてほしいです。以上、今回の散文でした。

この絵は学校の自画像の授業で描いたもので、生まれ変わったらなってみたい生き物の形態を描いたものです。  
主に道路脇に落ちているは片方だけの軍手を食べています。昨日まであった軍手がふっと消えているのはこいつの仕業！



プロフィール： 堀越風人  
1996年11月4日生まれ 高3（小4でアスペルガーと診断される）趣味は、読書と古道具屋巡り

## 森の家にはピザ窯があります

ボランティアの星野さんの発案で、ほとんど一人で作られました。材料は、耐火煉瓦の他は、森の家周辺の石や土を使っています。薪はもちろん裏山から調達します。ピザ体験の当日2時間前から薪をくべるのも星野さん。前日から仕込んだピザ生地とピザソースも星野さん作。具材の用意や、体験のサポート等、ボランティアさんがお手伝いします。ワイワイ生地を伸ばしてお好みにトッピングすれば、石窯であっ



というまに召し上がれ！

6月の「ピザマルシェ」に始まり、今年度は出番がいっぱいでした。森Caféでも何回も実施。「トモロの森」さん、「ぷらーなさん」、体験にはまりました。

宿泊のお客様もお昼はこれで！お客様のリクエストにお応えして、一組でも対応してさせていただきます。

緑に囲まれたデッキで、美味しい空気とともに、自分で作ったピザを食べる！最高！！時にケーナの音色が付くことも…

事前のお申し込みが必要です。お問い合わせください。

# みんなみんなボランティア

## ボランティアスタッフ コアメンバー



**狩野洋子**  
理事・福祉広報  
森Cafe・ピザ



**織茂加代子**  
音楽イベント



**佐藤智久代**  
福祉物販  
森Cafe  
ピザ



**高橋洋子**  
イベント・掃除



**深谷智子**  
イベント  
福祉ランチ

神経内科より  
森の家に行くほうが  
禁になる！

でも、なるい禁と併合でね  
(^-^)



**柴崎智美**  
福祉ランチ  
通信編集  
FB



**小宮弥生**  
会員管理・事務処理



**石川理恵**  
バザー  
森Cafe  
福祉ランチ



**堀越美妃**  
理事  
ボラ統括  
運営会議招集

いっしょに  
生きる！

## ピザチーム

**小暮栄子**  
ピザ作り  
他多数



**星野和二**  
窯作り・釜焚き  
薪作り・ピザ作り

## 通信編集委員

内田康子・黒羽知代  
柴崎智美・篠原知倫  
児玉葉子・多胡恵美

あれ～？  
私の写真は～？

## 花と野菜 寄付

**吉田八重子**  
黛 丞  
加藤夫妻  
池田 敦

**入浴介助**  
佐藤かほる  
杉山 恵  
上原百合子  
仲島玉恵

## 音楽ボランティア

**掛川理沙**  
音楽療法  
島村敦子  
ヘルマンハーブ  
オカリーズ  
オカリナ  
他多数

**お客様サポート**  
佐藤かほる夫妻  
送迎・付添  
潮 忠男  
送迎

## Brog・FB HP・チラシ

織茂加代子  
神宮淳美・柴崎智美  
深谷智子・渡辺宏樹

## 宿直 ボランティア

**堀越美妃**  
杉山 恵  
仲島玉恵

**小林 脩**  
副理事長  
予算決算



## 役員

**上泉 歩**  
会計監理  
**星野和二**  
会計監査  
**木下美幸**  
電気系ヘルプ  
**石橋與子**  
**吉井貴志**



一人じゃ出来ないけれど  
誰かとなら  
何かができる

**内田康子**  
通信編集長  
アート・広報

脳性マヒの  
おねえさん♪

**草刈ボランティア**  
小林 脩・原田将寿  
潮 忠男・進藤陽一郎  
他多数

## 厨房スタッフ



**小林いち子**



**黒羽正明**  
富樫恵子



**湯本見千子**

## 月例運営会議メンバー(オープン制) 十数名

**森Cafe・福祉ランチ**  
深谷智子・石川理恵・佐藤智久代  
狩野洋子・川田明美・柴崎智美  
茂木澄子・金井咲苗・大前くん  
中嶋あゆみ・市川久美子  
富樫恵子・萩原愛子・高橋広恵

## スタッフ・専任



**石橋邦和**



**黒羽知代**

森の家では、理事・専任スタッフをはじめとして、みんながボランティアです。  
この他にもたくさんの方々、また会員の皆様のご協力により、森の家は支えられています。  
ここに改めて感謝申し上げます。(お名前を掲載しきれなかった方、ごめんなさい)  
森の家はいつでも・なんでも、ボランティアさん大歓迎です。ご一緒に!!!



統合失調症と診断されて20年ほどになります。この病気は実に病態がさまざまで、私が悩んでいることと他の人が悩んでいることが一致するとは限りません。たとえば、私は普段ほとんど幻聴を感じたことがない代わりに、寝不足の時などに透明な蜘蛛や小さな星や人の頭のような幻覚を見ることがあります。でも、「幻覚を見てしまった、もうダメだ」と思うことはないです。「また見えたか、疲れているのかな」という感じです。そして、妄想はというと、「死者の魂と神仏は実在する。祈りは聞き届けられる」と本気で信じている点が妄想なのかも知れませんが、健常者だって神社仏閣に手を合わせるし、それくらいのことは問題ではないでしょう。多分私の普段の言動は素人目には健常者とほとんど変わらないだろうと思います。

私がこうして健常者とほぼ同じように生活をしていられるのは、薬を欠かさず飲んでいるおかげです。発病して間もない頃は大変でした。薬を拒否しては錯乱状態になって、泣いたり暴れたり、手芸に凝って昼夜逆転したり。何より悩みの種だったのが徘徊の発作でした。買い物に行くつもりで家を出たはずなのに、なぜか迷子になって、時間がたてばたつほど叱られるのが怖くて帰れなくなるのです。最大で三日帰れなくなったことがありました。一晩戻れなかったことはしょっちゅうでした。家で待っている家族のほうこそ半狂乱で心配していたのですが、帰りたかったけど叱られるのが怖くて帰れなかったと子供のようなことを言って私が泣くので、家族も次第に病気のせいで帰れないことがあるのだと理解してくれるようになりました。でも、薬のタイプが古いうちは、かなり気をつけていても発作を起こすことがありました。人生四回目の錯乱の発作で入院したのをきっかけに新薬が処方され、それ以降は錯乱状態になることも徘徊の発作を起こすこともなくなりました。今では疲れている時、たまに幻覚を見る程度で病状は落ち着いています。ありがたいことです。

錯乱状態の時の記憶はほとんど残らないので、周りに多大な心配をかけたほどには本人は応えていないのですが、徘徊の発作は今でも怖いです。冬の真夜中、やっとたどり着いたコンビニの片隅で、寒さと恐怖に震えながら夜明けが来るのを待っていた時のことをよく思い出します。寒いのに、手のひらにびしょり汗をかいていたのは何故だったのでしょうか。今は待っていてくれる人がいるから家に帰ることが出来るけれど、一人になったらどうしよう。どこにも行かないよう、ひきこもって暮らすか、それとも気の向くままの旅暮らしで一生を終えるか。旅先で錯乱してしまう危険性を考えればひきこもるのが安全なのですが、誰に叱られるでもなく自由に歩き回ることが出来ればそれはそれで悪くないのかなとも思います。そして、本格的なホームレスにならないためには何より薬を切らさないこと。これに尽きると思います。

転々（ペンネーム）・・・名古屋市在住。物書き志望。統合失調症歴20年

この文章に対するご感想などをお寄せください。 → [reiko-daidoji@mva.biglobe.ne.jp](mailto:reiko-daidoji@mva.biglobe.ne.jp)

## 事務局ニュース

### 新料金表

料 金 表						
						2014年4月1日より
		朝・夕食	朝・夕食 (12/31)	夕食	朝食	食事なし
	大人	7,200	7,700	6,400	5,700	4,800
	小学生	5,700	6,200	4,900	4,300	3,300
	幼児 (布団なし)	3,600 (3,400)	3,800 (3,600)	3,200 (3,000)	2,800 (2,600)	2,400 (2,200)
	乳児	無料	無料	無料	無料	無料
障害割引	大人	△ 1,000	△ 1,000	△ 800	△ 700	△ 600
	小学生	△ 700	△ 700	△ 500	△ 400	△ 400
	幼児	△ 500	△ 500	△ 400	△ 300	△ 300

### 障害割引のご利用

2014年度のご利用(4月～1月予約分) 170泊

\* 宿泊総数の40%に当たります。\* 昨年度 120泊。

### 東京都休養ホーム制度のご利用

\*森の家は今年から東京都休養ホーム事業の保養施設に指定されました\*

2014年度のご利用(7月～12月) 3組14泊(うち、付添5泊)

東京都在住で障害者手帳をお持ちの方が森の家に宿泊された場合、  
ご本人は、一泊6490円、付添は3250円(年2泊まで)の補助が受けられます。  
指定保養施設は、全国に38施設ありますが、群馬県では、まついだ森の家だけです。

**「まついだ森の家」が、NHKで放映されました。**

**「高齢者、障害者の旅を支援する」のテーマです。**

★9/16(火)午後6時40分～「ほっとぐんま640」のきらりふるさとのコーナー、群馬県向けの放送。

★9/18(木)午前11時5分～「ひるまえほっと」群馬の話題のコーナー。関東一都六県向けの放送。

取材は、9/5。毎年横浜から一人でこの時期に来るご常連のFさん(福祉工場勤務・グループホーム入居)をメインに、スタッフ同行で富岡製糸場を観光するシーンを撮影しました。夜は他のお客様へのインタビュー、ボランティアさんたちのいる風景も入ってにぎやかに。

その時間帯で取り上げられた他の団体は、以下の2つです。

東京の、障害のある方々の旅をサポートする草分けの旅行社「べるてんぼ」

東京の、トラベルヘルパーサービスを提供する旅行社「あ・える倶楽部」

この2社と比べると、森の家は極めて低額でサービスを提供、また、たくさんのボランティアさんが関わっていることが際立った特徴です。

スタジオのコメントでは、「高齢者・障害者の旅の支援は、まだ限られてもおり、情報もいきわたっていない。ニーズが増える時代、もっと、サービスが広がるといいですね。」と。

(でも、放映後、お問い合わせはほとんどありませんでした・・・)

【正会員】

新井好松、高尾寛之、三澤智美

【賛助会員】

今村井子、岩井均・智子、岡崎るみ、川幡のり花、北村三恵子、小坂橋寿・なみ江、小崎りつ子、櫻井喜久江、櫻井俊輔、芝塚敏子、下和佐紀一、田中美香、堤一彦、中畝常雄・治子、中込京子、中澤康子、野口正江、藤井玲子、町田直美、

【ご寄付】

氏家裕子、浦野洋子、勝村良一、草津町手をつなぐ育成会、小竹茂治、桜井きくえ、須藤いく子、角幸子、内藤容子、ヒューマン・インテグリティ、福田晋児・典子、古川佐喜子、山田好孝、中畝常雄・治子、

【法人会員】

株式会社 花のみさわ

\*\*\*\*\*

◎ホームページURL <http://www.normanet.ne.jp/~morinoie/>

「まついだ森の家」で検索してください。

.....新しいHPです。更新作業続行中.....

◎ facebook ご覧ください

◎ E-mail [matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp](mailto:matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp)

NPO まついだ森の家サポーター会員 いつでも募集中！

- \* 様々なハンディをお持ちの方とその支援者に対して  
気兼ねなく泊まれる宿と、交流の場を提供する。
- \* 里山の豊かな自然環境を発信していく。

年会費は 10,000円、3,000円、1,000円 です。  
「まついだ森の家通信」年2回と、各種イベントのご案内をお送りいたします。  
よろしくご支援ください。

お振込先 ゆうちょ銀行 □座番号 00100-9-631710  
加入者名 NPO法人まついだ森の家

法人会員

(有)ヒューマンインテグリティ

(株) 高橋ハウジング

(有) ゆう優ハウス大和

(株) 花のみさわ

2015・1・1

まついだ森の家をご支援くださる皆様へ

まついだ森の家 理事長 黒羽 知代

2015年、新しい年を迎えるとともに、森の家通信16号をお届けすることができ、うれしく思います。

昨年度も、会員の皆様、ご宿泊はじめ様々な形で森の家にいらして下さった方々、物心両面で支えて下さったたくさんの方々に心からお礼申し上げます。

世相は、意図せぬ方向に向かうか見え、息苦しい思いをぬぐいきれません。そんな中で、希望をもって、この場でできることを丁寧にしていきたいと思うものです。

あと数ヶ月で満19年を終わり、4月からは20年目に入ります。1つの時代を越えてきたかなという思いもあります。

どうぞ、この一年をよろしくお見守り下さいますよう、お願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

「自閉症の人が住みやすい街は誰にとっても住みやすい街である」

何かをしてあげていると思っている時には、必ずその相手から何かをしてもらっているのである。(中略)人は誰でも、どんな状況の中でも、誰かの役に立ちたいのであり、それが自覚できた時に明日を生きる力が湧いてくるのだと思う。そう考えると、自閉症の人たちの存在は、家族や地域の生きる力になっていることに気づく。自閉症の人を家族が支え、その家族を地域が支え、さらには外部から支援の手が集まってくる。自閉症の人を中心として、人の絆が生まれてより強固になって行く。

岩手自閉症協会会長 熊本葉一氏の講演資料より

熊本氏は、自閉症者の親であり、NPO法人「一関ええ町作り隊」理事長

(「自閉症」という言葉を自分の身近にいる、小さなもの、弱いもの、悩んでいるもの、病んでいるもの、等々におきかえてみれば、そして、自分自身がその立場にあることをイメージするときには誰でも、そう思うのではないだろうか・・・)